

「平成28年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」実施報告書

【学校名】 八千代町立下結城小学校

【テーマ】 I II III IV V

- I 「オリンピック精神」の活用
- II 「おもてなし」や「ボランティア精神」の醸成
- III 障害者スポーツへの関心の向上
- IV 異文化理解・国際教育の促進
- V スポーツを楽しむ心の醸成

【実践研究タイトル】

障害者スポーツについての理解を深めよう

【実施学年】

- ・おもてなし講座（5・6年）
- ・福祉体験（5年）
- ・上村選手の講演会（全学年）
- ・ブラインドサッカーエクスペリエンス（5年）

【目的・ねらい】

パラリンピックの競技についての理解を深め、パラリンピック精神から自分自身の生き方を振り返ることができる。

【種類】 ※当てはまるものに○・複数可

- 各教科(体育) 道徳 外国語活動 総合的な学習の時間 特別活動
教科以外での取組()

【実践内容等】

1 おもてなし講座の開催

- (1) 日 時 平成29年1月30日(月) 10:00~11:00
(2) 実施学年 第5・6学年 79名 (道徳)
(3) 講 演
 演 題 「グローバルマナーとおもてなしの心」
 講 師 江上いずみ 先生
 現筑波大学客員教授、元日本航空客室乗務員
(4) 内容等
 ア 日本の文化「おもてなしの心」とは・・・「大切な人をお迎えするときの気持ち」
 イ 好感度を高める「態度」・・・あごを上げると明るい印象になる。
 ウ 「おもてなし」をする「ごあいさつ」・・・「分離礼」ことばの後におじぎをする。
 エ グローバルなあいさつ・・・国際理解教育としての握手のポイント
 オ 最後に SHIMOYUKI 航空のキャビンアテンダントとしてのごあいさつ



2 福祉体験活動

- (1) 日 時 平成29年2月6日(月) 3・4校時
- (2) 実施学年 第5学年 31名(総合的な学習の時間)
- (3) 内容等(2グループに分かれて、次の2つの体験を実施した)

ア 手話体験

手話講習のボランティア団体の方々を講師として招き、基本的な手話の体験を実施した。

イ 車椅子・アイマスク体験

八千代町の社会福祉協議会の協力を得て、車椅子とアイマスクの体験を実施した。



3 パラリンピアンを招いた講演会の開催

- (1) 日 時 平成29年2月14日(火) 9:00~12:00

(2) 講 演

演 題 「パラリンピック精神について」

講 師 上村 知佳 先生

日本車椅子バスケットボール協会 理事

シドニーパラリンピック大会

車椅子バスケットボール競技 銅メダリスト

(3) 内容等

ア 講演・・・1~3年、4~6年に分けて実施

自身の体験をもとに、できないことをあきらめるのではなく、できるようにするためにどんな工夫が必要かを考えて行動することの大切さを教えていただいた。



イ 車椅子バスケットボールの実技披露及び体験

児童は上村選手のプレーを見て、その迫力に圧倒されていた。また、努力することの大切さや素晴らしい姿勢を実感することができた。



ウ 上村選手への質問コーナー

最後の20分間は、児童からたくさんの質問があり、ひとつひとつ丁寧に答えていただいた。上村選手の人間的な魅力がさらに広がった時間となつた。



4 障害者スポーツの体験（ブラインドサッカー）

(1) 日 時 平成29年2月17日（金） 1・2校時

(2) 実施学年 第5学年 31名（体育）

(3) 内容等

ア 本時のねらいの説明とルール等の詰合い

先日の上村選手の講演会での「できないことを数えるのではなく、残されたものを最大限に生かす」というパラリンピックの精神を取り上げ、どうすれば目が見えない状態でもサッカーを楽しむことができるかを子どもたちと考え、ルール等を決めた。

イ 配慮すること

（ア）安全面から

- ・座ってプレーする。
- ・手を使う。
- ・ゾーン内でのポジション制。
- ・体育館の壁に安全マットを敷く。

（イ）障害への対処の面から

- ・ボールの転がる音が聞こえるようにプレー中は静かにする。
- ・指示を出す担当をひとり決める。

ウ 自分たちで考えて作ったブラインドサッカーを体験

- ・はじめは、怖がっていた児童も徐々に動きが活発になり、プレーを楽しむことができた。



5 成果

（1）児童や保護者の振り返りから

ア おもてなし講座

（児童の感想）

- ・相手の気持ちを大切にすることが「おもてなしの心」なんだと思った。

- ・日本人として「おもてなしの心」を忘れずに入々と接したい。

（保護者の感想）

- ・仕事や日常の生活でも生かすことができる話だったのでとてもよかったです。

<p>イ 福祉体験 (児童の感想)</p> <ul style="list-style-type: none">手話を通してコミュニケーションがとれたとき、気持ちまで通じ合えた感じがしてうれしかった。アイマスク体験では、何も見えず怖かったが、サポーターのおかげで階段も上り下りができた。今度、目が不自由な方が困っているのを見かけたときには、声をかけたい。 <p>ウ 上村選手の講演 (事前のアンケート) *全児童208名実施</p> <p>Q1. 2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが行われることを知っているか。 知っている 83% 知らない 17%</p> <p>Q2. オリンピックをテレビで見たことがあるか。 ある 74% ない 26%</p> <p>Q3. パラリンピックをテレビで見たことがあるか。 ある 62% ない 38%</p> <p>Q3. パラリンピックの競技の種目を知っているか。(複数回答あり) *主なもの • バスケットボール • サッカー • 陸上 • 水泳 • 卓球</p> <p>(事後の児童の感想)</p> <ul style="list-style-type: none">上村選手のお話を聞いて「あきらめないこと」「支えてくれる人がいること」を忘れずに生きていきたいと思う。これから、車椅子に乗っている方を見かけたら、自然に声をかけたいと思う。 <p>エ ブラインドサッカ一体験 (児童の感想)</p> <ul style="list-style-type: none">始めは怖かったが、ボールの音と友達のアドバイスを頼りにゲームに集中して取り組むことができて楽しかった。上村選手の話の中の「できないからといってあきらめるのではなくて、できるようにするためにどうすればいいか考えることが大事」ということが理解できた。	<p>(2) 今回の活動を通した児童の変容</p> <p>ア 日常のあいさつが大きく変わった。相手の表情を見て、気持ちを込めたあいさつ(分離礼)や声かけができる児童が増えた。</p> <p>イ 児童会活動や学級での係活動等、主体的な取組が以前よりも活発になった。</p> <p>ウ 友達の意見を最後まできちんと聞き、自分の意見をもつことができる児童が増えた。</p>
---	---

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う問題点】

講師の依頼や日程・内容等の連絡調整が難しかったが、このような機会を与えていただけたことで、本校にとって非常に大きな教育的成果を得ることができた。今後、講師やゲストティーチャー等の人材バンクがあれば、目的やねらいに合わせた計画が進めやすい。